

## 川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 4-9	戦略的なシティプロモーション	
		施策 4-9-1	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
			○ シティプロモーション推進事業
			○ 国際交流推進事業
			国際施策推進事業
			交流推進事業
			○ 国際交流センター管理運営事業
			○ 市民文化大使事業
		施策 4-9-2	川崎の特性を活かした観光の振興
			○ 観光振興事業
			○ 産業観光推進事業
			○ 市制記念花火大会事業
			○ 競輪場整備
			○ 競輪開催・運営
			競馬事業の運営

# 施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	戦略的なシティプロモーション	計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年度)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	37.5%	50.0%
		②			
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40901000	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成			
担当	組織コード	所属名			
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室			
関係課	総務企画局総務部庶務課、市民文化局市民生活部(交流推進担当)、市民文化局市民文化振興室				
施策の概要	<p>●本市に対する都市イメージは10年前と比較し約10ポイント上昇するなど、上昇傾向にあるものの、今後もより一層都市イメージの形成・向上を図るため、藤子・F・不二雄ミュージアムや川崎フロンターレ、等々力緑地、工場夜景など、本市の多面的な魅力を活かしたイメージ戦略を進めます。</p> <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、羽田空港の更なる国際化などによる、新たなビジネスチャンスの活用、観光・商業の振興を図るため、ブランドメッセージ等を効果的に用いて、国内外に向けたさまざまな情報発信を戦略的に行います。</p> <p>●市民の情報取得手段が新聞、テレビのほかインターネットやソーシャルメディアなど多様化する中で、媒体や発信手法の特性を踏まえた、市民にしっかりと情報が届く、効率的・効果的な情報発信が必要です。さまざまなメディアの効果的な活用、パブリシティ活動(メディアへの広報活動)とともに、口コミなどによる、市民自らの情報発信力を活かす取組を展開します。</p> <p>●グローバル化が進展する中、世界における本市の存在感を高めるため、これまで良好な関係を築き上げてきた海外都市とお互いの強みや特性を活かした交流を推進し、都市の魅力の向上を図ります。</p>				
直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)				現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位
成果指標	1	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	6	目標値(a)	6.06	6.1	点	
				実績値(b)	5.9			
	指標の説明	H26	達成率(b)/(a)	97.4%	-	↑		
			指標達成度 ※1	C	-	増減		
2	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値	5	目標値(a)	5.06	5.1	点		
			実績値(b)	4.9				
指標の説明	H26	達成率(b)/(a)	96.8%	-	↑			
		指標達成度 ※1	C	-	増減			
3	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	50.3	目標値(a)	50.7	51	%		
			実績値(b)	42.0				
指標の説明	H26	達成率(b)/(a)	82.8%	-	↑			
		指標達成度 ※1	C	-	増減			
4	指標の説明		目標値(a)					
			実績値(b)					
			達成率(b)/(a)					
			指標達成度 ※1					
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明		実績					
2	指標の説明		実績					
その他	定性的な成果(取組を進めたことで発現した効果などについて記載)	<p>・平成28年7月にブランドメッセージを策定・公表し、庁内・関係団体はもとより、広く民間企業等にも積極的なPR活動を行った結果、民間企業・団体が制作する広報物や商品・グッズへの使用、フロンターレ、プレイブサンダースのユニフォームへの活用、タクシー車体への掲出などの成果につなげることができました。</p>						
指標等の	成果分析(指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)	<p>●市に対する愛着、誇りについては、目標設定時の平成26年度において、1都3県(東京都、神奈川県(横浜市、川崎市を除く)、千葉県、埼玉県)と比較しても高い数値(愛着:6.0ポイント、誇り:5.0ポイント)となっていました。平成27年度の各種事件・事故に伴う本市のイメージダウンによりポイント数を下げてしまいました。特に、近隣都市において本市のイメージを良いと感じる人の割合が平成26年度当時50.3%であったのが、平成27年度43.3%に大幅に下がった要因として上記事件・事故が原因と考えられます。ただし、本市居住10年以上の市民に限ると、愛着:6.3ポイント、誇り:5.2ポイントといずれも目標値を越えており、今後は、居住年数の少ない市民、特に若い世代に対するプロモーション、都市ブランドの強化が必要であると考えます。また、本市のイメージを良いと感じる市民の割合は、平成26年度66.7%から平成28年度68.5%と約2ポイント上昇していることから、今後は様々な媒体を通じて、市外に向けて本市の都市イメージ向上に努める必要があると考えます。</p>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(※決算額は見込) H29年度				
1	40901010 シティプロモーション推進事業	その他	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。	●「第1次シティプロモーション推進実施計画」の策定及び推進 ●各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ●ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の実施 ●都市ブランド推進事業の実施(7事業)	40,401	33,573	4	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					49,264	43,965			
					35,308				
2	40901020 国際交流推進事業	イベント等	海外からの視察受入や国際交流協会との連携により、行政だけでなく市民による国際交流を促進します。	●韓国・富川市友好都市提携20周年記念事業の実施 ●韓国富川市との「職員相互派遣協定」による、本市職員の派遣の実施	32,691	31,536	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					38,514	31,162			
					52,947				
3	40901030 国際施策推進事業	その他	国際施策推進プランの的確な推進を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。	●川崎市国際施策推進委員会の開催(2回)	4,000	3,996	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					281	76			
					227				
4	40901040 交流推進事業	イベント等	国内の友好自治体との交流を推進し、相互理解と友好親善を深めます。	●友好自治体の子どもと本市の子どもとが一堂に会した友好自治体交流会の実施(39名) ●那覇市との友好自治体提携20周年記念として、記念植樹などの記念事業を実施	28,867	27,732	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					28,599	27,459			
					28,145				
5	40901050 国際交流センター管理運営事業	施設の管理・運営	市民の国際理解の増進及び国際友好親善の発展等に寄与するため、「国際交流センター」を運営します。	●国際交流に関する研修会や行事等の開催 ●指定管理者と連携した、国際交流に取り組む市民、団体等の主体的な国際交流活動への支援	194,917	187,152	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					192,174	181,126			
					170,023				
6	40901060 市民文化大使事業	その他	文化芸術・スポーツ分野で活躍する本市にゆかりのある方々を市民文化大使として任命し、国内外での活動で連携することで、本市の魅力やPR、イメージアップを図ります。	●市民文化大使に個々の活動や、市の事業への協力による川崎市のアピールやイメージアップなどの貢献	1,451	646	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					1,216	730			
					2,134				
7									
8									
9									
10									

4 施策の進捗状況			
施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	C

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のままで継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901010	シティプロモーション推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	シティプロモーション戦略プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(3) 市民との積極的な情報共有の推進			1 効果的な情報発信の取組推進					
予決算 (単位: 千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		事業費 A	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0	0
		その他特財	309	—	605	—	605	292	—
		一般財源	40,092	—	48,659	—	48,659	35,016	—
	人件費* B			38,584	38,584	0	0	0	
総コスト(A+B)			87,848	82,549	49,264	35,308	0		
人工(単位: 人)			4.55						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、海外を含む市内外の方	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市の多様な魅力を様々なメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外、更には海外に情報発信します。民間活力を活かした地域資源の発掘や新たな魅力作り、連携等により、川崎の魅力をより高め、市民のシビックプライドを醸成します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「第1次シティプロモーション推進実施計画」に基づく、シティプロモーションの推進 ②国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ③ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の実施 ④都市ブランド推進事業の実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	平成28年7月にブランドメッセージ、平成29年1月にシティプロモーション戦略プラン第1次推進実施計画の策定を行い、シティプロモーションの推進に取り組んできました。成果指標に基づく実績については、目標を下回った一方で、本市に対してよいイメージを持つ市民は前年度より1.3ポイント上昇の68.5%となりました。(参考平成18年度:52%)					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	目標		6.06	6.1	点
	説明 都市イメージ調査における「シビックプライド指標」の「愛着」に3つの質問項目の評価を1点～10点の幅で設け、ポイントの平均値をそれぞれの要素の得点と算出	実績	5.8	5.9		
2 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値	目標		5.06	5.1	点
	説明 都市イメージ調査における「シビックプライド指標」の「誇り」に3つの質問項目の評価を1点～10点の幅で設け、ポイントの平均値をそれぞれの要素の得点と算出	実績	4.9	4.9		
3 成果指標	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	目標		50.7	51	%
	説明 都市イメージ調査において、「あなたは、川崎市のイメージについて、どのように思いますか」という質問項目に対して、評価を1点～10点の幅で設け、6点～10点を「よい」とした割合	実績	43.3	42.0		
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市の魅力や施策・取組等についての情報が市民等に十分届いていない状況にあるため、効果的な情報発信等により、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を行う必要があります。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H <b>27</b> 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	職員の広報に関する意識やスキルを向上させ、情報発信力を強化するため、広報テクニックや知識を共有する研修やマニュアルの作成等を行いました。 また、民間活力を生かしたイメージアップ事業については、シティプロモーション戦略プランの目標であるシビックプライドの醸成を目的の一つとして定めたほか、テーマ設定を設けるなど、都市ブランド強化に向けた制度改正を行いました。

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	<b>a</b>
	評価の理由	市の魅力や施策・取組等についての情報が市民等に十分届いていない状況にあるため、引き続き効果的な情報発信等により、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を行う必要があります。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	<b>c</b>
	評価の理由	民間を含めたブランドメッセージの活用が増加していることや、市の魅力資源(都市ブランド推進事業含む)のメディアへの露出により、市民による本市の都市イメージは向上していますが、近隣都市における本市のイメージは、下降傾向にあるため、市外に向けた都市イメージ向上に努める必要があります。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>b</b>
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>c</b>
	評価の理由	広報の質を向上し、情報発信力を強化するため、今年度も職員向けの研修やマニュアルの更新を行いました。ブランドメッセージの活用は本格化して間もないところですので、事業手法等について継続して見直し等を進めていきます。	
施策への貢献度	<b>貢献度区分</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b>	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>B</b>	本市の多様な魅力を、様々なメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外、更には海外に情報発信できたことで、都市イメージの向上とシビックプライドの醸成への貢献がありました。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	<b>方向性区分</b>	<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b>
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>II</b>
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	<b>変更前</b> <small>(次年度計画上の記載)</small>	
	<b>変更後</b> <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	
	<b>変更の理由</b>	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901020	国際交流推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	171100	総務企画局総務部庶務課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	32,691	31,536	38,514	31,162	36,926	52,947	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	18,324	-	18,942	-	18,942	19,563	
	一般財源	14,367	-	19,572	-	17,984	33,384		
人件費* B			18,826	18,826	0	0	0		
総コスト(A+B)			57,340	49,988	36,926	52,947	0		
人工(単位:人)			2.22						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	海外都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互惠関係が構築できる交流事業を実施するとともに、地域における国際交流を推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	姉妹友好都市提携から周年記念を迎える時期を捉えて、今後どのような分野で交流をより進めていくか確認書などで明らかにしています。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①海外からの視察受入や(公財)国際交流協会と連携した国際交流の推進 ・韓国・富川市友好都市提携20周年記念事業	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の富川市との周年記念事業については、川崎市代表団の富川市への派遣、青少年によるサッカー交流事業のほか、共催事業として「ナンタ公演」「日韓美術交流展」を行いました。 その他、韓国富川市との「職員相互派遣協定」に基づき本市職員を韓国富川市へ派遣しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	本市における外国人住民の数は約3万人(全市民の2%超)であり、また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、外国人観光客等の本市を訪れる外国人の増加が見込まれることから、これまで以上に本市の国際化の取組を進めていく必要があります。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H <b>25</b> 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25: 韓国富川市との職員相互派遣について、派遣及び受入を毎年実施していたものを、経費や効果の点から、「職員相互派遣協定」を見直し、隔年ごとに実施することにしました。

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	<b>a</b>
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、本市が進める国際施策の推進には市民、市民団体等を含めた市全体での取組が必要です。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	<b>b</b>
	評価の理由	国際交流・国際親善の推進には、継続的な交流が不可欠であり、今後とも更なる交流を深める事業を実施することが必要です。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>a</b>
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>a</b>
	評価の理由	交流事業については、相手方との調整により事業内容やスキームが決定するため、引き続き効率的・効果的な手法について検討を行いながら事業を実施していきます。	
施策への貢献度	<b>貢献度区分</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b>	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>B</b>	今年度の韓国・富川市友好都市提携20周年記念事業においては、関係団体との調整を行い、177名での大規模訪問を実現するなど一定程度の都市イメージの向上への貢献がありました。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>I</b> 今後とも、それぞれの都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互惠関係が構築できる交流事業を実施することにより、地域における国際交流を推進していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	<b>変更前</b> (次年度計画上の記載)	
	<b>変更後</b> (上記計画上の記載に対する変更点)	
	<b>変更の理由</b>	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40901030	国際施策推進事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	171100	総務企画局総務部庶務課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成28年度	平成37年度		—	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	4,000	3,996	281	76	281	227	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
	一般財源	4,000	-	281	-	281	227		
人件費* B			2,374	2,374	0	0	0		
総コスト(A+B)			2,655	2,450	281	227	0		
人工(単位:人)			0.28						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	国際施策推進プランの的確な推進を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市国際施策推進委員会を設置し、プランの進捗管理を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「国際施策推進プラン」の推進と進捗管理	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 川崎市国際施策推進委員会を2回開催し、プランの進捗管理を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	活動指標 川崎市国際施策推進委員会の開催件数	目標		2	2	回
		実績	0	2		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				



## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	訪日外国人旅行者の増加や国際的な都市間競争の激化、外国人市民の増加と多様化など、グローバル化に伴う新たな課題への取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 多文化共生分野も含めた総合的な国際施策を推進するため「川崎市国際施策推進プラン」を策定しました。 H24年度: 庁内各局で個別に行われている国際関連事業を全庁的な観点に立って整合性を図りながら効果的に実施していくため、「国際施策展開の基本的な考え方」(庁内向け・国際展開分野のみ)を作成しました。 H23年度: 庁内の国際関連事業を所管する課で情報共有等を行う「川崎市国際施策調整会議」を設置・開催しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、課題解決に向けては、市民や市民団体を含め、本市全体で取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国際施策推進プランの進捗を適正に管理することにより、本市国際施策を推進します。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	今後とも川崎市国際施策推進委員会を通じてプランの適性な進捗管理を行っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	国際施策を総合的に推進することにより、市内外へ本市の魅力等をアピールするなど、一定程度の施策への貢献はありました。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 今後とも川崎市国際施策推進委員会を通じてプランの進捗管理を適正に行うとともに情報共有や連携、課題への対応を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要									
事務事業	事務事業コード 40901040	事務事業名 交流推進事業					実施計画の記載 無		
担当	所属コード 251000	所属名 市民文化局市民生活部(交流推進担当)							
実施期間	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類		分類1(市民サービス等) イベント等	分類2(内部事務) —			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等 行政改革プログラムに	文化芸術振興計画								
関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位: 千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	28,867	27,732	28,599	27,459	28,599	28,145		
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	
		市債	0	—	0	—	0	0	
		その他特財	1,575	—	1,564	—	1,564	1,572	
	一般財源	27,292	—	27,035	—	27,035	26,573		
人件費* B			5,088	5,088	0	0	0		
総コスト(A+B)			<b>33,687</b>	<b>32,547</b>	<b>28,599</b>	<b>28,145</b>	<b>0</b>		
人工(単位:人)			0.6						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)	
政策体系	<b>政策</b> 戦略的なシティプロモーション <b>施策</b> 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 <b>直接目標</b> 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	本市及び友好自治体の市民
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市と友好自治体の関係にある都市との交流を深め、本市の都市イメージの向上を図ります。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市と国内友好自治体の次代を担う子どもたちが一堂に会する場を提供し、相互理解と親善を深めます。
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①友好自治体交流会の実施 ・友好自治体の子どもと本市の子どもが一堂に会して、交流事業を実施します。 ②友好都市提携から節目の都市に記念事業を実施 ・那覇市との友好自治体提携20周年を迎えるにあたり、民間団体と共同して、記念事業を実施します。

実施結果 (Do)							
上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った				
		2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った				
		3. ほぼ目標どおり					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①友好自治体交流会については、友好自治体の子どもと本市の子ども39名が参加し、実施しました。 ②那覇市との友好自治体提携20周年記念として、記念植樹などの記念事業を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		交流事業の実施にあたっては、各自治体の厳しい財政状況のもと、その事業の効果が具体的に見えることが求められてきています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H27年度: 友好自治体の子どもの交流事業実施において、参加した子どもの送迎方法について効率化を図るなど事業の実施方法を見直し、経費を節減しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	友好自治体と連携した交流会を実施し、参加した子ども同士での交流プログラムや市内施設見学等を行うことで、本市のイメージアップにつながる事業であり、継続的に実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	次代を担う子どもたちに本市について知ってもらうことでイメージアップを図る事業であり、参加者のアンケートや参加自治体職員からも事業継続の要望があげられています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	友好自治体交流会については、事業内容は委託化が可能ですが、大幅なコスト増が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	次代を担う子どもが参加し交流を行うことで、自分のまちや他のまちについて知り、友好親善を深めることができるとともに、本市の施設見学などにより、本市のイメージアップを図ることができました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	友好自治体との友好親善を深め、本市のイメージアップを図るため、交流プログラムについて、引き続き検討しながら事業を継続していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

# 平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要									
事務事業	事務事業コード 40901050	事務事業名 国際交流センター管理運営事業					実施計画の記載 有		
担当	所属コード 251000	所属名 市民文化局市民生活部(交流推進担当)							
実施期間	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類		分類1(市民サービス等) 施設の管理・運営	分類2(内部事務) —			
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市国際交流センター条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、人権施策推進基本計画								
行財政改革プログラムに 関連する課題名	改革項目 2(13) 市民サービス等の再構築			課題名 4 国際交流センターのあり方の見直し					
予決算 (単位: 千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源 内訳	事業費 A		194,917	187,152	192,174	181,126	248,369	170,023
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	61,000	1,000	—
		その他特財	4,735	—	4,693	—	4,693	4,675	—
	一般財源	190,182	—	187,481	—	182,676	164,348	—	
人件費* B				16,536	16,536	0	0	0	
総コスト(A+B)				<b>208,710</b>	<b>197,662</b>	<b>248,369</b>	<b>170,023</b>	<b>0</b>	
人工(単位:人)				1.95					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)	
政策体系	<b>政策</b> 戦略的なシティプロモーション <b>施策</b> 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 <b>直接目標</b> 市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本施設を拠点として、市民が国際理解を深め、市民文化の向上や国際親善の発展に寄与する社会の形成を目指します。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理制度による運営のもと、国際理解を深める講座や国際交流を推し進める事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①国際交流に関する研修会や行事等の開催 ②指定管理者と連携した、国際交流に取り組む市民、団体等の主体的な国際交流活動への支援 ③民間活力を活用した国際交流センターの効率的な管理運営の実施 ④国際交流センターの中長期的な施設の長寿命化の考え方の検討及び実施に向けた調整

実施結果 (Do)								
上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	<b>3</b>		1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	国際理解講座の開催回数			目標	13	11	12	回
	説明	国際相互理解を進めるための講座の開催回数		実績				
2 活動指標	外国人市民対象のイベント・講座の開催回数			目標	8	5	5	回
	説明	外国人市民を対象としたイベント及び講座の開催回数		実績				
3				目標				
	説明			実績				
4				目標				
	説明			実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正・規制緩和など)		国際交流センターが築20年を超え、施設・設備の老朽化が進んでいることから、施設・設備の機能維持・向上に向けた定期的・計画的な管理・運営が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・H27年度:国際交流センターのあり方等について、庁内の検討会議を立ち上げ、検討を進めています。 ・H28年度:国際交流センターのあり方等で検討された、駐車場の有料化、ホテル・レストランの行政財産の貸付方法の見直しなどを進めました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	国際交流センターを拠点とした国際交流の推進や国際交流活動への支援などを進めるため、継続的に実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者による講座・イベント等も目標どおり実施され、多くの方に参加いただいております。また、事業の成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	国際交流センターは指定管理者により運営されており、民間活用は既に実施されています。また、駐車場の有料化、ホテル・レストランの行政財産の貸付方法の見直しなどを進めました。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	来館者数は増加しており、施設の貸し出しについても高い利用率を維持しています。また、駐車場の有料化など国際交流センターの管理運営方法の見直しなども進めていることから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	指定管理者による国際交流センターの運営を継続し、国際理解を深める講座や国際交流を推進する事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。また、見直しを進めてきた駐車場の有料化やホテル・レストランの貸付方法の変更について、運用を開始します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40901060	市民文化大使事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	258000	市民文化局市民文化振興室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	その他	その他	その他			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例							
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	1,451	646	1,216	730	1,796	2,134
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	0	-	0	0
		その他特財	700	-	700	-	700	600
	一般財源	751	-	516	-	1,096	1,534	
人件費* B			1,272	1,272	0	0	0	
総コスト(A+B)			2,488	2,002	1,796	2,134	0	
人工(単位:人)			0.15					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市のアピールとイメージアップに貢献していただきます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人を川崎市市民文化大使に認定し、個々の活動や市長の代理としての業務または市の業務などを通じて川崎市のアピールやイメージアップに貢献していただきます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	第7期市民文化大使と連携した取組の推進	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	市民文化大使に個々の活動や、市の事業に協力いただくことにより、川崎市のアピールやイメージアップなどに貢献していただきました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、市のPRの必要性やPR等を行う機会が増えており、現状の事業内容を維持しつつも活躍の幅を広げるよう、庁内外を問わずより一層の連携及び情報発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度: 東日本大震災被災者等支援基金を活用した、市民文化大使の被災地での活動に対する補助金の創設など、市民文化大使の活動の幅を広げるための見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民文化大使は、知名度のある方にお願いしており、大使の活動の中でPRしていただくことは、市が直接行うよりも幅が広く、注目度も大きいため。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果が具体的に見える事業ではなく、はっきりとした評価はできませんが、それぞれの活動や市の行事で、アピールいただいているので、徐々に上がっているを選択しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	元々、ほとんどが文化大使自身の活動の中でPRいただいているものであり、市の負担は小さく、効率的に実施している事業です。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	文化大使自身の活動のほか、オリンピック・パラリンピックに向けた事業、被災地支援、庁内各部署における事業等に文化大使が協力することで、本市のイメージアップやアピールに貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 今後も文化大使自身の活動の中で市のPRやイメージアップを行っていただきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要						
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり				
	政策(2層)	戦略的なシティプロモーション		計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)
	市民 実感指標	① 市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	37.5%	50.0%	
施策 (3層)	施策コード	施策名				
	40902000	川崎の特性を活かした観光の振興				
担当	組織コード	所属名				
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課				
関係課	経済労働局公営事業部総務課、業務課					
施策の概要	<p>●本市には、川崎大師や生田緑地をはじめ、新たな観光の目玉になった産業観光や工場夜景、カワサキハロウィンなど多くの観光資源が存在します。今後は、市内観光地の魅力やイベント、ショッピングなどの情報を効果的に発信して、本市への観光客増加と観光消費の拡大を図ります。</p> <p>●2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機として捉え、多くの外国人を魅了することができるような観光資源を活用するとともに、海外の観光客の動向等を踏まえ、羽田空港からのアクセスなど本市の優位性を活かすことにより、本市を訪れる外国人観光客の増加に向けた観光施策の拡充を図ります。</p> <p>●競輪事業については、若い世代や女性などの新たなファン層を拡大するために、ガールズケイリンの開催、施設の再整備等を推進し、競輪のイメージアップを図ります。</p>					
直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる					

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位	
成果 指標	1	主要観光施設の年間観光客数	1,504	目標値①	1,597	1,646	万人 (「年」表記)	
		指標の説明 主要観光施設からの報告値等の集計	H26	実績値②	1,544			
					達成率(②/①)	96.7%	-	↗
					指標達成度 ※1	b	-	増減
	2	宿泊施設の年間宿泊客数	178	目標値①	184	187	万人 (「年」表記)	
		指標の説明 市内主要宿泊施設の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	H26	実績値②	182			
					達成率(②/①)	98.9%	-	↗
					指標達成度 ※1	b	-	増減
	3	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	15	目標値①	16	17	万人 (「年」表記)	
		指標の説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	H26	実績値②	20			
					達成率(②/①)	125.0%	-	↗
					指標達成度 ※1	a	-	増減
4	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数	6,600	目標値①	7,000	7,200	人 (「年」表記)		
	指標の説明 工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	H26	実績値②	5,253				
				達成率(②/①)	75.0%	-	↗	
				指標達成度 ※1	c	-	増減	
その他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	指標の説明		実績				
	2	指標の説明		実績				
その他 定性的な成果 (取組を進めたこと で発現した効果など について記載)								
指標等の 成果分析 (指標の目標値達成 を阻む外的要因等 を含めて記載)	<p>●本市を訪れる外国人観光客の増加に伴い、宿泊施設の外国人宿泊数が当初目標を大幅に上回りました。また、工場夜景・産業観光ツアーについては、産業観光振興協議会による定期的なツアーが休止していることにより、当初目標を下回りました。</p>							

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】



3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(※決算額は見込) H29年度				
1	40902010 観光振興事業	その他	情報発信や観光案内機能の充実等の取組を進めるとともに、外国人観光客の誘客を促進します。	●「新・かわさき観光振興プラン」に基づく施策の推進 ●効果的な情報発信の充実 ●外国人観光客の誘客促進の実施(外国人の宿泊客数:20万人)	62,149	60,956	3	B やや貢献している	III 事業規模拡大
					54,427	53,961			
					68,938				
2	40902020 産業観光推進事業	その他	川崎産業観光振興協議会、市観光協会、商工会議所等の関係機関と一体となって、本市の産業観光の推進及び認知度向上を図ります。	●産業観光ツアー、工場夜景ツアーの推進(14回実施) ●全国各地への修学旅行誘致活動の展開(3回実施) ●産業観光検定合格者を対象にしたガイド養成講座の実施(4名育成)	9,600	9,600	3	B やや貢献している	III 事業規模拡大
					8,400	8,400			
					10,950				
3	40902030 市制記念花火大会事業	イベント等	川崎の夏の風物詩として親しまれている花火大会を開催することで、「ふるさと川崎」の意識の高揚を図り、豊かな市民文化の創造をめざします。	●平成28年8月20日(土)に第75回川崎市制記念多摩川花火大会を開催(観客数 18万5千人)	81,345	81,270	4	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					81,201	81,173			
					81,201				
4	40902040 競輪場整備	施設の管理・運営	公園との一体感を感じられる空間づくりや持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくりをメインコンセプトとして、施設の再整備を行います。	●メインスタンド内装改修工事の実施 ●既存施設除却工事の実施(9件実施) ●老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施	2,473,554	2,040,386	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					1,082,574	982,749			
					875,478				
5	40902050 競輪開催・運営	その他	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めるとともに、競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場をめざします。	●包括的な業務委託事業者を選定 ●川崎フロントレーと連携し会員限定での初心者教室や記念競輪等でバックヤードツアーの開催 ●第12回サマーナイトフェスティバル(GII)の開催(7月)及び平成30年度特別競輪開催に向けた手続き ●市内業者等に協賛レースの開催(10回開催)	18,144,749	15,537,789	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					21,326,342	20,886,181			
					20,566,286				
6									
7									
8									
9									
10									

4 施策の進捗状況			
施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902010	観光振興事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	—	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、産業振興プラン、情報化推進プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		62,149	60,956	54,427	53,961	54,427	68,938
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	
		市債	0	—	0	—	0	0	
		その他特財	486	—	486	—	486	833	
	一般財源	61,663	—	53,941	—	53,941	68,105		
人件費* B				28,408	28,408	28,408	28,408	0	
総コスト(A+B)				<b>82,835</b>	<b>82,369</b>	<b>82,835</b>	<b>97,346</b>	<b>0</b>	
人工(単位:人)				3.35		3.35			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内への集客を推進し地域経済を活性化します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	各種観光事業や多様な広報戦略に取り組むとともに、観光協会の組織・活動に対する支援を行うなど、本市の観光施策を効果的に実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「新・かわさき観光振興プラン」に基づく施策の推進 ②効果的な情報発信の充実 ③川崎駅北口における魅力発信施設の設置に向けた整備の検討 ④外国人観光客の誘客促進 ⑤かわさき市民祭りの開催	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度		<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。				
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	主要観光施設の年間観光客数	目標		1,597	1,646	万人 (「年」表記)
	説明 主要観光施設からの報告値等の集計	実績	1,530	1,544		
2 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数	目標		184	187	万人 (「年」表記)
	説明 市内主要宿泊施設の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	181	182		
3 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	目標		16	17	万人 (「年」表記)
	説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	20	20		
4		目標				
	説明	実績				

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2015年(平成27年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は1億9,291万人で、2014年(平成26年)の観光客数(1億8,410万人)に比べ881万人の増加(前年比4.8%)となっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け観光に関する市民ニーズが増加する見込であり、行政の関わりが求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標は目標に達しており、今後も成果をさらに高める余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を産業観光振興協議会に移行することによりコストの削減が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	現在行っているイベントの開催、外国人誘客事業及びホームページ・冊子等による情報発信等が川崎の観光魅力の向上につながっています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III 2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、外国人観光客の誘客促進の事業規模を拡大し、インバウンド施策等のさらなる推進を図ります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40902020	産業観光推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	—	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、産業振興プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	9,600	9,600	8,400	8,400	9,400	10,950	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
	一般財源	9,600	-	8,400	-	9,400	10,950		
人件費* B			10,685	10,685	10,685	10,685	0		
総コスト(A+B)			19,085	19,085	20,085	21,635	0		
人工(単位:人)			1.26			1.26			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市、川崎産業観光振興協議会、川崎市観光協会、川崎商工会議所等が一体となり川崎の産業観光の推進を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市内に多数存在している生産施設や産業遺産、先端技術施設、研究開発施設などの地域資源を効果的に活用し、産業観光の取組を推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①産業観光ツアー、工場夜景ツアーの推進 ②全国各地への修学旅行誘致活動の展開 ③産業観光検定合格者を対象にしたガイド養成講座の実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①産業観光ツアーは6回実施、工場夜景ツアーはチャーターツアーを8回実施 ②北海道、九州等、修学旅行誘致活動を3回実施 ③ガイド養成講座の実施し、産業観光ガイド1名、工場夜景ナビゲーターを3名育成					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数	目標		7,000	7,200	人 (「年」表記)
	説明 工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	実績	5,392	5,253		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2015年(平成27年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は1億9,291万人で、2014年(平成26年)の観光客数(1億8,410万人)に比べ881万人の増加(前年比4.8%)となっています。
事業の見直し・改善内容	実施 (直近) <input checked="" type="checkbox"/> 27年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け観光に関する市民ニーズが増加する見込であり、行政の関わりが求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	産業観光振興協議会による定期的なツアーを中止しているため、目標値に達していませんが、民間によるツアーは好評であり、今後も参加者増に向けて取り組んでいきます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を産業観光振興協議会に移行することによりコストの削減が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	現在行っている産業観光ツアーや工場夜景ツアーなどが川崎の観光魅力の向上につながっています。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III 2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、新たに「外国人向け川崎寄り道ツアー」を開発する等、事業規模を拡大し、インバウンドを含む産業観光施策を推進します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	④「外国人向け川崎寄り道ツアー」の開発【新規】
	変更の理由	外国人宿泊者の増加に向けインバウンド施策を推進するため、新たに取組を追加します。

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40902030	市制記念花火大会事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	イベント等	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)							
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	81,345	81,270	81,201	81,173	81,201	81,201
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	0	—	0	—	0	0
	一般財源	81,345	—	81,201	—	81,201	81,201	
人件費* B			9,752	9,752	9,752	9,752	0	
総コスト(A+B)			90,953	90,925	90,953	90,953	0	
人工(単位:人)			1.15		1.15			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	主に川崎市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	花火大会を安全に楽しんでもらうとともに、「ふるさと・川崎」の意識を醸成しながら、市内観光産業の活性化を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	花火を楽しんでもらえるよう打上内容等に工夫を凝らすとともに、事故のないよう観客動線の確保や警備を充実させて安全に開催します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①観客の安全確保及び継続可能な花火大会の企画の立案・実施(有料協賛席販売数:5,200席以上) ②民間事業者との連携による安全で楽しい大会の運営計画の策定と実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当年度取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	有料協賛席チケット販売数については、台風の開東接近が約1週間前から予想される状況であり、また開催当日も雨天であったことから、前売り券、当日券ともに販売が伸び悩み、目標に達しませんでした。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	活動指標 説明 花火大会当日の会場内有料協賛席チケットの販売数	目標		5,200	5,250	席
		実績	5,137	2,822		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京会場(左岸側)は再開発の完成によりますます観客が増加傾向にあり、周辺環境保全や安全に最大限留意しつつ、対応を図っていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 以前は、東京会場上流側緩衝地帯については観客の立ち入りを禁止していましたが、東京会場での観客増に対応するため、保安と周辺住民の住環境保全に留意しつつ、その一部に上野毛B地区有料協賛席を新たに設定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	花火大会に対するニーズの高さは協賛席の販売数や総観客数が増えていることから明らかで、また民間で花火大会を行っている事例はあるものの、警備体制の確保の面で警察の協力を得やすい地方公共団体による実施が求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	天候の影響による変動を除けば、有料協賛席の販売数等は増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	委託等による民間活用のほか、事業手法についても安全対策費用が膨らむなかで常に見直しを行い、効率的な運営に努めています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	安全に花火大会を実施し、天候による一時的な観客等の減はあったものの、施策に一定の貢献をしています。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 有料協賛席の配置や警備体制も含めて、効率的な運営に向けて見直しを行いながら、引き続き、市民に親しまれる花火大会を安全に実施します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40902040	競輪場整備				有		
担当	所属コード	所属名						
	286100	経済労働局公営事業部総務課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 富士見周辺地区整備基本計画、川崎競輪場再整備基本計画							
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、スポーツ推進計画、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	2(1) 市民ニーズへの的確な対応に向けた組織の最適化 2(8) 特別会計の健全化			4 競輪事業の運営手法の見直し 1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	2,473,554	2,040,386	1,082,574	982,749	853,606	875,478
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	2,323,554	—	1,082,574	—	853,606	875,478
	一般財源	150,000	—	0	—	0	0	
人件費* B			10,515	10,515	0	0	0	
総コスト(A+B)			1,093,089	993,264	853,606	875,478	0	
人工(単位:人)			1.24					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	「公園との一体感を感じられる空間づくり」や「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」をメインコンセプトとした、施設の再整備を行います。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成28年度末のコンパクト化完了を目的に川崎競輪場再整備基本計画に基づき、施設の再整備に取り組みます。既存施設の内装改修工事や設備更新工事、維持修繕工事を実施します。施設整備・維持管理に必要な競輪施設等整備事業基金の積立・取崩を計画的に実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①メインスタンド内装改修工事の実施 ②外構整備工事及び投票所等の既存施設除却工事(8件)の実施 ③老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②の工事については、9件実施					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				



## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東日本大震災を契機としたメインスタンド等の耐震強度の引き上げに伴う工法の変更や、建築費の高騰、消費税率の改正などによる施設整備費用の増に対応するため、手法やスキームの調整が必要です。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 競輪事業特別会計全体の収支を勘案し、基金の範囲内で整備事業を実施できるよう工事の平準化を図りました。		

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	再整備基本計画のメインコンセプトである「公園との一体感を感じられる空間づくり」、「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」を行うことにより、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献しています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	再整備によりお客様の観戦環境の向上を図りました。また、競輪場敷地の公園への一部返還に向け、既存施設の除却工事を行いました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	再整備基本計画に基づく整備については、平成35年度まで行うよう工事の平準化を図りました。今後、新入場門や外壁の工事、メインスタンド3階内装工事、バンク内広場等の工事がありますが、引き続き、基金の範囲内で、効果的・効率的な施設となるよう仕様の見直しや整備方法の検討を行う必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	メインスタンドの整備を行うことにより、お客様の観戦環境の向上を図るとともに、競輪場敷地の公園への一部返還に向け、既存施設の除却工事を行い、施策への貢献はありました。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 再整備基本計画のコンセプトの実現に向け、時代の変化に対応しながら、引き続き、基金の範囲内で、効果的・効率的な施設となるよう、関係局や関係者等と調整を図り、仕様の見直しや整備方法の検討を行いながら事業を進める必要があります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40902050	競輪開催・運営				有		
担当	所属コード	所属名						
	286300	経済労働局公営事業部業務課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	その他	—	—			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度							
(法令・要綱等)	自転車競技法							
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	2(1) 市民ニーズへの的確な対応に向けた組織の最適化			4 競輪事業の運営手法の見直し				
	2(8) 特別会計の健全化			1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	18,144,749	15,537,789	21,326,342	20,886,181	17,246,600	20,566,286
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	0	-	0	0
		その他特財 一般財源	18,144,749	-	21,326,342	-	17,246,600	20,566,286
	人件費* B			118,635	118,635	0	0	0
総コスト(A+B)			21,444,977	21,004,816	17,246,600	20,566,286	0	
人工(単位:人)			13.99					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画(Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設、競輪場来場者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めることにより、安定的に一般会計への繰出を行います。競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	包括的な業務委託の平成29年度からの実施に向けた準備を進めます。新規ファンの獲得に向けた集客策等を検討するほか、競輪場再整備事業の進捗にあわせて、効率的・効果的な事業運営を推進します。 場外発売(他競輪場の車券を発売)及び併用発売(市営競輪の開催日に他競輪場の車券も発売)を積極的に行い、収益の向上を図ります。 適正かつ円滑な運営と競走の厳正を期するため、競輪関係団体と連携を図りながら、競輪開催を行います。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	① 効果的・効率的な運営方法による競輪の開催 ② 平成29年度からの包括的な業務委託の実施に向けた準備(公募の実施、事業者の選定、受託事業候補者との調整等) ③ 競輪女子会、ガールズケイリンやバックヤードツアー等の実施による新規ファンの獲得に向けた取組の推進 ④ 特別競輪の実施及び誘致活動の展開 ⑤ 企画レースや協賛レース等の活性化策の継続	

## 実施結果(Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②平成29年度からの包括的な業務委託の実施に向け、平成28年7月に公募を開始し、企画提案会を経て、事業者の選定を行いました。 ③川崎フロンターレと連携し会員限定での初心者教室や記念競輪等でバックヤードツアーを開催し、川崎競輪場のPR及び地元選手との交流が図られました。 ④第12回サマーナイトフェスティバル(GⅡ)を7月に開催しました。平成30年度特別競輪開催に向け開催申請資料の提出及び競輪関係団体に対しPR活動を行いました。 ⑤市内業者等に協賛レースについて周知PRを行い、10開催実施しました。(昨年度5開催)					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	一般会計への繰出金	目標		1.5	1.5	億円
	説明 競輪事業特別会計から一般会計への繰出額	実績	1.3	1.7		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	趣味やレジャーの多様化、ファンの高齢化などにより車券売上額は、減少傾向が続いています。 IR法や依存症対策の法整備などの動向を注視する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 民間ノウハウを活用して、安定的な競輪事業の確立や市民に親しまれる競輪場づくりを推進するため、競輪開催業務をはじめ日常業務の補助なども含めた、多数の業務を一括して民間事業者に委託する包括的な業務委託の平成29年度からの導入に向けた検討を行いました。 H28年度: 包括的な業務委託の導入に向けた準備(仕様書・募集要項等の作成、事業者の公募、選定、契約に向けた調整等)を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	競輪事業は、総務大臣が指定する市町村のみが実施できるものであり、競輪事業の収益は、一般会計へ義務教育施設整備事業に充てるために繰り出しております。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	競輪場再整備による施設のコンパクト化、観戦環境の改善、特別競輪の誘致等により収益の改善に努め、一般会計への安定的な繰り出しを行っております。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・平成29年度より包括的な業務委託を導入することにより、コストの削減が見込まれます。 ・平成29年度は包括的な業務委託導入の初年度となるため、業務の円滑な引継ぎを行うなかで、事務手続や人員体制などを改善する余地はあります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	競輪事業は、昭和24年に開設してから平成27年度までに約1.278億円を一般会計へ繰り出しており、平成28年度も一般会計へ1.7億円(平成27年度は1.3億円)を繰り出すなど、施策に貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成28年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40902060	競馬事業の運営				無		
担当	所属コード	所属名						
	286100	経済労働局公営事業部総務課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	—	—	その他			
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 地方自治法第284条第2項、競馬法							
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	0	0	0	0	0	0
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	0	-	0	0
		その他特財	0	-	0	-	0	0
		一般財源	0	-	0	-	0	0
	人件費* B			2,544	2,544	0	0	0
	総コスト(A+B)			2,544	2,544	0	0	0
	人工(単位:人)			0.3				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	戦略的なシティプロモーション 川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	神奈川県川崎競馬組合	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	神奈川県と連携して神奈川県川崎競馬組合の経営を安定させて、本市への配分金が繰出しできるようにします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	神奈川県と共同運営することを目的に設置した神奈川県川崎競馬組合を継続的に運営します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	神奈川県との連携による神奈川県川崎競馬組合の運営	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	神奈川県川崎競馬組合から本市への配分金の繰出し	目標		7,000	5,000	万円
	説明 本競馬事業における収益状況に応じた、本市への配分金の繰出し額	実績	3,000	7,000		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		I R法や依存症対策の法整備などの動向を注視する必要があります。	
<b>事業の見直し・改善内容</b>		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 12 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		競馬事業の運営体制を効率化するため、平成12年度より神奈川県と川崎市が構成団体となって、一部事務組合を設立しました。	
評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	競馬事業は、地方財政の寄与を主目的に運営しており、神奈川県川崎競馬組合からの配分金は、本市の義務教育施設整備事業に充てられています。 競馬事業は、競馬法により、日本中央競馬会又は都道府県、総務大臣が農林水産大臣と協議して指定するもの(指定市町村)のみができるものです。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	目標どおり、神奈川県川崎競馬組合から競馬事業の収益の一部を配分金として本市競輪事業特別会計を通して、一般会計に繰出している。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	神奈川県と連携して、神奈川県川崎競馬組合のより一層の経営効率化に取り組みます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	神奈川県川崎競馬組合から本市へ配分金は、競輪事業特別会計を通して一般会計へ繰り出すことにより、貢献しています。



## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	<b>変更前</b> (次年度計画上の記載)	
	<b>変更後</b> (上記計画上の記載に対する変更点)	
	<b>変更の理由</b>	